

問1 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度について、その目的と仕組みを正しく説明しているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。 | 2. 有力な豪族の家柄を重視し、世襲によって代々高い役職を独占させることで、政治の安定を図った。 | 3. 土地と人民をすべて国家のものとし、位階に応じて区分田を割り当てることで、税制の基礎を築いた。 | 4. 各氏族に対し、その功績に応じて「姓（かばね）」を授けることで、天皇を中心とする身分秩序を固定した。 |
|---|--|---|--|

問2 飛鳥時代において、家柄にとらわれず個人の才能や功績がある者を役人として登用するために、冠の色によって位の高さを示した制度を何といいますか。（2020年 京都公立入試 類似）

- |          |            |           |           |
|----------|------------|-----------|-----------|
| 1. 冠位十二階 | 2. 墾田永年私財法 | 3. 万葉集の編纂 | 4. 枕草子の執筆 |
|----------|------------|-----------|-----------|

問3 7世紀の初め、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に、中国の進んだ制度や文化を取り入れるために派遣された使節を何といいますか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

- |        |        |          |          |
|--------|--------|----------|----------|
| 1. 遣隋使 | 2. 遣唐使 | 3. 日宋貿易船 | 4. 朝鮮通信使 |
|--------|--------|----------|----------|

問4 4世紀から7世紀にかけての朝鮮半島において、北部の高句麗や南東部の新羅と対抗しながら、大和政権と緊密な関係を築いた南西部の国はどこですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

- |       |       |        |      |
|-------|-------|--------|------|
| 1. 百済 | 2. 新羅 | 3. 高句麗 | 4. 唐 |
|-------|-------|--------|------|

問5 7世紀後半、朝鮮半島において唐と結ぶことで百済や高句麗を滅ぼし、半島を初めて統一した国を選びなさい。（2014年 和歌山公立入試 類似）

- |       |        |       |      |
|-------|--------|-------|------|
| 1. 新羅 | 2. 高句麗 | 3. 百済 | 4. 隋 |
|-------|--------|-------|------|

問6 飛鳥時代から江戸時代までの日本の歩みを記した年表において、最も古い時期の大きな転換点として位置づけられる出来事について述べます。7世紀半ば、中大兄皇子や中臣鎌足らが、当時の政治で強大な力を持っていた蘇我氏を倒し、天皇を中心とした国づくりを目指して着手した政治改革を何といいますか。（2026年 愛媛公立入試 類似）

- |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 大化の改新 | 2. 天保の改革 | 3. 寛政の改革 | 4. 建武の新政 |
|----------|----------|----------|----------|

問7 663年に朝鮮半島の西側沿岸部（現在の錦江の河口付近）で起きた白村江の戦いで敗れた後、日本国内で強化された防衛政策として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

- |   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| 1. 唐や新羅の侵攻を警戒し、対馬や北九州などに「防人」を配置し、水城や山城を築いた。 | 2. 唐との友好関係を回復させるため、最澄や空海を遣唐使として派遣し、大陸の文化を導入した。 | 3. 元（モンゴル帝国）の再来に備え、博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を構築した。 | 4. 国内の武士を統制するために「御成敗式目」を制定し、軍事的な結束を固めた。 |
|---|--|---|---|

問8 飛鳥時代末期の701年に、唐の制度を参考にして制定された、日本で最初の本格的な法典を何といいますか。（2020年 東京都公立入試 類似）

- |         |          |         |           |
|---------|----------|---------|-----------|
| 1. 大宝律令 | 2. 御成敗式目 | 3. 建武式目 | 4. 十七条の憲法 |
|---------|----------|---------|-----------|

問9 7世紀初めに小野妹子らが使節として中国の隋へ送られた背景として、当時の日本が目指していたことについて述べたものとして最も適切な説明はどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

- |                                |                               |                              |                             |
|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 1. 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため | 2. 中国の皇帝から日本の王としての地位を認めてもらうため | 3. 中国の軍事力を背景に、朝鮮半島の新羅を攻撃するため | 4. 中国で流行していた禅宗の教えを、僧に学ばせるため |
|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|

問10 天智天皇の時代、大宰府の周辺に「水城」や「大野城」といった大規模な防衛施設が相次いで築かれる直接のきっかけとなった歴史的な出来事として、正しいものはどれですか。（2023年 佐賀公立入試 類似）

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 1. 日本が百済の復興を支援するために朝鮮半島へ出兵したが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したこと。 | 2. 聖徳太子が隋に遣隋使を派遣し、「日出づる処の天子」という対等な形式の国書を送ったことで緊張が高まったこと。 | 3. 新羅が日本に対して朝貢を拒否したため、日本が大規模な新羅征討計画を立てて軍備を増強したこと。 | 4. 元（モンゴル帝国）の軍勢が九州の博多湾に襲来し、それに対抗するために防塁を築いたこと。 |
|---|--|---|--|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。	聖徳太子は、従来の氏姓制度（家柄に基づく世襲制）による官僚登用から脱却し、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため、個人の能力や功績を評価する仕組みを導入しました。これが冠位十二階です。この制度では、昇進が可能であることや、冠の色によって一目で地位が判別できるといった特徴がありました。
問2	<b>答え 1</b> 冠位十二階	聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政を務めていた時期に制定されました。それまでの「氏姓制度」のように家柄で地位が決まる仕組みを改め、能力のある人材を確保することで、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整える狙いがありました。
問3	<b>答え 1</b> 遣隋使	聖徳太子は、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くため、当時の中国の王朝である隋に使節を送りました。これが遣隋使です。その後、中国の王朝が交代すると遣唐使が派遣されるようになりますが、小野妹子が派遣された時点では隋が中国を統一していました。
問4	<b>答え 1</b> 百濟	朝鮮半島の南西部に位置した百濟は、北から圧力を強める高句麗や、隣接する新羅との勢力争いの中で、日本の大和政権と結びつきました。この交流を通じて、日本へ仏教や儒教といった当時の先進的な大陸文化が伝わりました。
問5	<b>答え 1</b> 新羅	4世紀頃から高句麗、百濟、新羅の3国が勢力を争う三国時代が続いていましたが、7世紀に唐と結んだ新羅が660年に百濟、668年に高句麗を相次いで滅ぼしました。その後、新羅は共同で戦った唐の勢力も退け、676年に朝鮮半島の統一を成し遂げました。
問6	<b>答え 1</b> 大化の改新	聖徳太子の死後、政治の実権を握り天皇をしのぐほどの勢力を持った蘇我氏に対し、中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）が協力して蘇我入鹿を暗殺したことからはじまった改革です。この改革によって、豪族による政治から天皇を中心とした中央集権的な国家体制への移行が図られました。
問7	<b>答え 1</b> 唐や新羅の侵攻を警戒し、対馬や北九州などに「防人」を配置し、水城や山城を築いた。	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した日本は、その後の報復や日本本土への侵攻を強く恐れました。そのため、天智天皇（中大兄皇子）は、対馬や舌岐、北九州などの国防の最前線に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置するとともに、大宰府を守るための「水城（みずき）」や、朝鮮式山城を各地に築いて防衛体制を急いで整えました。また、都も内陸の大津宮（近江大津宮）へと移されました。
問8	<b>答え 1</b> 大宝律令	文武天皇の時代である701年に制定されました。これによって、刑罰に関する規定である「律」と、政治の仕組みに関する規定である「令」が整い、天皇を中心とする中央集権的な国家体制（律令国家）が確立されることとなりました。
問9	<b>答え 1</b> 中国の進んだ制度や文化を学び、国家の仕組みを整えるため	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定するなど、中央集権的な国家体制の確立を目指していました。遣隋使の派遣は、隋の高度な統治システムや仏教文化を直接吸収し、日本の政治改革に活かすことが大きな目的でした。また、中国の皇帝に対して対等な立場での外交を試みたことも特徴の一つです。
問10	<b>答え 1</b> 日本が百濟の復興を支援するために朝鮮半島へ出兵したが、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したこと。	663年の白村江の戦いで敗戦により、当時の倭（日本）は唐や新羅による報復侵攻の脅威にさらされました。これに対処するため、中大兄皇子（後の天智天皇）は国防を最優先課題とし、対外窓口であり九州の行政拠点でもあった大宰府を守るために「水城」を築き、さらに亡命してきた百濟の技術者の指導を得て、朝鮮式山城である大野城などを各地に設置しました。元の襲来は13世紀の出来事であるため混同に注意が必要です。